



草笛学園 2026年1月号

新しい一年が始まりました。今年も子どもたちと一緒にたくさんあそんで、いっぱい笑って、笑顔あふれる毎日を過ごしていきたいですね。空気が乾燥しており、体調を崩しやすい季節です。子どもたち、そして私たち大人も体調管理に気を配りながら過ごしていきましょう。本年もどうぞよろしくお願いいたします。

子どもの「イヤダ！」に、どうつきあう？

子どもの「イヤダ！」に手こずったことは、子育てや保育にかかわった方ならほとんどが経験済みだと思います。なぜ、おとなの言うことを聞かずに「イヤダ」と拒否の意思表示をするのか。これについては、多くの発達心理学者が研究してきました。自我の発達として、一歳過ぎから二歳ごろにかけての発達過程でみられる事象だといわれています。私が気になっていること。それは、一歳や二歳の時期だけではなく、幼児期や学齢期になっても、あるいは中学生になってからの「イヤダ」に手こずっている相談もよくある、ということです。「イヤダ」は、子どもが小さいときだけではなく、大きくなってからもまだまだ親や先生を困らせることがある、ということを、広く知ってもらいたいと思います。

どんなことであれ、「イヤダ」は子どもの大切な意思表示です。頭ごなしに否定したり、拒否したりするような性格のものではありません。それは何歳になっても同じです。

「お風呂に入ろう」と誘っても、子どもからは「イヤダ」の返事しか返ってこないときには、あわてず、叱らず、イライラせず。「そうだね、お風呂に入るのがイヤなんだね」と、子どものイヤな気持ちに共感するお返事を。どんなイヤダにも、「イヤなんだね」と受け止めて返すのがベストです。まず自分の気持ちをわかってもらうという経験が、子どもにとってコミュニケーションを体感するスタートラインだからです。

～中略～

小さいときに子どもが発してくれる「イヤダ」は、親としてこれから直面するかもしれないもっとドキッとするような「イヤダ」に出会ったときに、あわてず迷いなく「イヤなんだね」と共感できるための練習をさせてくれているんだと思います。

「そうだね」と子どもにかけける言葉は、甘やかしとも、言いなりとも違います。むしろ、それは、子どもががんばることができる、子どもの気持ちを強くする言葉です。なぜなら、子どもがいちばん求めている共感の言葉だから。おとなにわかってもらえたら、苦手なことでも、イヤなことでも、子どもは乗り越えていくパワーを身につけます。

参考文献『いつからでもやりなおせる子育て 第2章』池添 素 著

※個別相談も行っています。職員とゆっくりと話がしたい。子どもの発達状況を知りたいなどございましたら、担当職員の方にお知らせください。

次回のめだか教室は…

めだか教室①…2月10日（火）9：20～11：15→さーきっとをします

◎持ってくるもの シューズ・着替え・水筒

※保護者の方も動きやすい服装でお願いします♪

めだか教室②…2月24日（火）9：20～11：15→さーきっとの予定でしたが

くっきんぐをします

◎持ってくるもの シューズ・着替え・エプロン（あれば）・三角巾・水筒

※保護者の方もエプロン・三角巾を持ってくるください♪

『参加される皆様へ』 ～ご協力をお願いします～

- ・お休みをされる場合は、学園までご連絡ください
- ・参加費はありません。制作や、クッキングの活動の時には材料費として100円いただきます。その都度連絡いたします
- ・活動は主に、草笛学園遊戯室での活動となります
- ・水分補給のため、お茶を用意して下さい（ジュース類は控えてください）
- ・きょうだい児の参加はご遠慮ください。預け先がない場合は事前にご相談ください
- ・トラブルによるケガ防止のため、参加前に爪を必ず切ってきてください